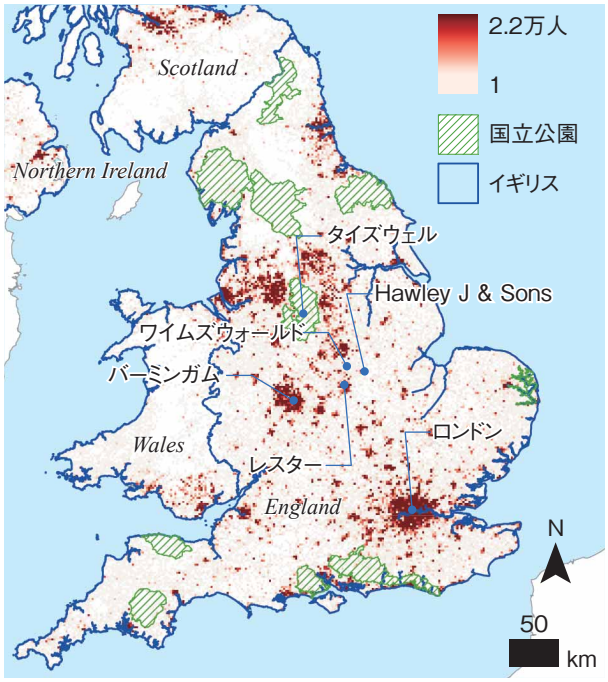
都市住民を魅了するイングランド農村を巡る

主事研究員　多田忠義

イングランドはイギリスの主要な国(country)で、人口はイギリス全体の８割を占める。人口は、ロンドンやバーミンガムなどの大都市に集中する一方、イギリスでは1950年代以降、大都市から農村へ移住する動きがみられる。これを反都市化(counter-urbanisation)と呼び、アメリカや他のヨーロッパ都市でも似た動きが報告されている。この動きに付随したもう一つの動きが、ルーラル・ジェントリフィケーション(rural gentrification)である。ジェントリフィケーションとは、都市の再開発などで、新住民の流入、不動産価格の上昇や、それに伴う低所得者層の立ち退きなど、地域の経済・社会・住民構成が変化することを指し、農村で似たような変化が起きていることをルーラル・ジェントリフィケーションと呼ぶ。

以下で紹介するイングランド農村は、2019年８月に筆者が研究交流の一環で訪れた地域である(第１図)。反都市化やルーラル・ジェントリフィケーションがどのような形で農村景観に表れているか、写真を示しつつ説明したい。

第１図　11年の人口分布と紹介する農村等の位置



資料　Reis, S. et al. (2017). UK gridded population 2011 based on Census 2011 and Land Cover Map 2015. NERC Environmental Information Data Centre. https://doi.org/10.5285/0995e94d-6d42-40c1-8ed4-5090d82471e1(2019年10月18日最終アクセス), ONS, European Environmental Agencyのデータより筆者作成

１　不動産売り出しの看板と高級車に垣間見るルーラル・ジェントリフィケーション

レスターを出発すると、まもなく牧草地や小麦畑が広がり始めた。いくつかの農村集落を通過したが、居住環境や住宅設備の良さを売りにした住宅販売の看板が目に飛び込んでくる(写真１)。こういった看板は、イングランド北部の農村でみられ、農村での住宅需要が底堅いことを物語っている。実際、農村や郊外の不動産物件とその地域の産業や歴史などを紹介する番組「Escape to the Country(田

写真１　郊外・農村で散見される不動産販売の看板(筆者撮影、以下同じ)

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

園へ脱出する)」が、02年以降継続して英国放送協会(BBC)で放映されているほどだ。

こうした反都市化の動きの活発さは、農村の住民構成に多様性をもたらしている。住民は、農民だけでなく、近郊の都市へ通勤する人も多く、道中では、庭付き住宅が居並ぶなかに高級車が並ぶ景観が散見された(写真2)。ちなみに、ワイムズウォールドの中心部で売物件の看板が出ていた住宅は、土地付きで約4,000万円と、日本では考えられないほど高額な販売価格であり、ルーラル・ジェントリフィケーションを垣間見ることができた。

写真2　高級車や庭付きの住居が居並ぶ農村の中心部

写真3　800m先に農家直売所がある

写真4　環境配慮型の酪農・畜産が営まれている農場

写真5　赤い電話ボックスとタイズウェルの街並み

2　反都市化の原動力である魅力的な農村

幹線道路では、直売所の看板が目に留まる(写真3)。採れたての新鮮な野菜が容易に入手できる魅力的な農村生活は、反都市化の原動力の一つとなっているはずである。

そして、このような看板があれば、間もなく牧草地や小麦畑などの広大な農地が眼前に広がる。筆者が訪問したHawley J & Sons農場の放牧地では、野鳥の生活環境や小川の植生などを保全する環境配慮型の酪農・畜産が営まれている(写真4)。また、この農場では風力発電を自前で導入し、生乳の保冷や農場内の施設に必要な電力の一部を供給している。この発電に対し農場主は、収益改善だけでなく二酸化炭素排出の削減にも貢献していると、語った。この農場も農村の魅力度上昇に貢献していると感じた瞬間であった。

3　ルーラル・ジェントリフィケーションで出現した農村の歴史保存活動

タイズウェルは、ピーク・ディストリクト国立公園の内部に位置する農村で、近隣の都市まで1時間程度で車通勤できることから、移住者の人気は高い。村中心部には、1432年に建てられた住宅が残っており、風情ある街並みが保たれている。しかし、反都市化の流れで村民の約半分が移住者となり、村の史料が散逸することを危惧した住民らは歴史グループを組織した。彼らは、村史の編さんやDVDの制作といった記録に加え、使われなくなった赤い公衆電話ボックスを景観の一部として残し、そこで、タイズウェルの歴史を音声で聞くことができるようにした(写真5)。

このように、多様な農村景観を反都市化やルーラル・ジェントリフィケーションの枠組みで切り取ると、地域間比較が可能になる。日本とイングランド農村の景観を比較するとどのようなことが言えるか、今後の課題として考えてみたい。

(ただ　ただよし)